

私たちの西地域

《発行》
中津西まち
づくり協議会

手賀野(手賀野上区, 第1区, 第2区, 会所ヶ丘区)

駒場(第3区, 後田区, 松源寺区, 大峽区, 共栄区, 第4区, 第5区, 西ヶ丘区, 大平区, 山手区, 桃山区, 第6区, 第23区)

つなぐ つながる 新たな場として

「中津西まちづくり協議会」設立総会を開催！

～ 連携と住民参加で地域の特性を活かしたまちづくりを進めます ～



青山市長の祝辞



原会長から役員を紹介

総会開催にあたり設立準備会の原善治会長が挨拶

令和4年7月23日、中央公民館ホールに青山節児市長らを来賓に迎え、区長や住民約60人が参加して「中津西まちづくり協議会」設立総会を開催しました。来賓を代表して、青山市長からお祝いの言葉を頂き、平岩県議会議長からの祝電が披露されました。



会場内展示と総会資料表紙



西地区区長会が主体となって新たなまちづくり組織の設立準備を進めてきたもので、市内では15番目となります。まちづくり協議会会長には、原善治準備会会長が選出されました。

会場内には、今までに発行してきた地域版広報、空撮DVD、地域の歴史文化学習冊子、昔の風景写真、リニアや防災リーフレットも展示しました。

規約、役員、事業計画及び収支予算など、当日の資料や内容については、中津西まちづくり協議会のホームページをご覧ください。動画館(ドローン空撮)や写真館(昔と今のまち風景)、西地域の歴史や史跡などのメニューもあります。

これからの活動や目指す役割などへの思いについては、次のページで少しふれていますのでご覧ください。体制づくりや部会メンバー拡大も進めます。



<https://nishi-machikyo.com>

●中津西まちづくり協議会の活動は“コツコツ” みんなで考えて一つずつ実行へ

令和4年7月にようやくスタートしましたが、これからの計画としては地域版広報の発行やホームページ拡充のほか、勉強会や話し合う場をつくること、そして住民アンケートの検討も行いながら私たちの課題やみんなの思いを具体化するため、地域ビジョンの策定を目指します。

交流、コミュニティ

- ・歴史文化や景観を生かしたイベント(ウォーキング等)を行い、地域のつながり、交流の場を作ります。
- ・様々な活動をつなぎ発展させることで中津西まちづくり協議会の拡充を図り、以前から市へ要望している活動拠点「西地区交流センター」の早期実現を目指します。



安心安全

- ・避難所の在り方について市と意見交換を行い、身近な地域の集会所を避難所として充実することや市の指定避難所のあり方を地域の立場で考えます。
- ・青木斧戸線開通後の交通状況による歩行者の安全確保、接続する市道や雨水排水対策を関係機関へ要望していきます。

域学連携 (地域と学校)

- ・中京学院大学生の協力を得て、野球・卓球などの技術や経験を西地域の子供たちのクラブ活動へとつなぎます。
- ・中津商業高校の地域活動の一つとして生徒たちと“福祉”を話し合う場を設けます。

子供と高齢者

- ・社会福祉機関や活動している団体などと連携して、子ども・高齢者の支援を考えます。
- ・特に、子ども食堂の取組み、老人クラブやサロン、避難などについて先進事例を参考にしていきます。

環境、ゴミ

- ・環境センター最終処分場が黄色信号の今後を皆で考える機会を作ります。
- ・区長会と連携して、市の出前講座によるゴミ出し方法、リサイクルを学ぶことを進めます。
- ・県の森林環境税から創設された「地域活動支援事業」をみんなが使えるように、制度のPRや申請を支援します。

情報発信、魅力ある地域

- ・地域版広報「私たちの西地域」を西地区区長会から引き継ぎ、タイムリーなお知らせ、地域の記録として発行を続けていきます。
- ・より多くの人たちに中津西地域を知っていただき、魅力を感じてもらえるように、ホームページの充実を図ります。
- ・“地域の記録は私たちの財産”として皆さんにご協力いただいた「昔と今のまち風景」の取組みをこれからも継続発展させ、ホームページだけでなく、より多くの方に見ていただけるように写真展の開催を計画します。
- ・区長会と連携して、地域課題の解決やみんなの願いを市などへ要望します。

伝統と文化活動

- ・ギオンバや太鼓、獅子舞、絵画や踊りなどの活動を支援し、機会や場の確保などに取り組みます。
- ・コミュニティー(宝くじ)助成や市のがんばる地域サポート事業など、様々な支援制度の活用を推進します。

ふるさと教育

- ・コミュニティスクール(学校と地域でつくる学びの場)の実現に参画します。
- ・先に発刊した地域学習資料「私たちの西ちいき」冊子を活用し、子どもから大人まで、地域の歴史や史跡の学習機会創出に取り組みます。
- ・西地域の子供もたちが地域の魅力を知り、語れるように、農業や資源の発見体験などへの協力支援を呼びかけます。

● “青木斧戸線”の開通は11月1日になります！

国道19号と国道257号を結ぶ青木斧戸線の事業が開始されたのは平成26年。すでに一部の区間では供用がされていますが、ようやく全線が開通することになります。11月1日(火)午後から開通の式典が行われますが、実際に車の通行が出来るのは夜になります。

なお、この道路開通に先立って10月中旬から、国道19号線の小向井交差点(手賀野)は現在の十字交差点からT字交差点に変更となりますので、左折のみになります。



青木斧戸線と国道19号の新しい交差点付近(中央部分)



どちらも左折のみとなりますのでご注意ください



青木交差点(R257との接続)



下校風景(←新しくなった上宿橋と↑青木交差点方面)



現在の渋滞状況(↑中津川から青木交差点方面へ向かう車)



↑中津川インター方面から青木交差点を通る車

●3年ぶりの「ぎおんば」は、思い出もさまざま

かつてを知る大人たちは、ちょうちんの数も自由で、飾りも色々で楽しかった、竹竿を新しくするために木曾川の設楽(しだら)の森の竹藪まで行ったなど、思い出の地域行事「ぎおんば」を語ります。

コロナ禍で2年中止、やがて中学1年生が3年生になり、各区では伝統行事と子供たちの健康のはざままで開催を悩み、何とか今年こそ実施の方向にと規模を縮小したり工夫をして、みんなが努力しました。

感染拡大もあって約半数の区が実施でした。ぜひ来年は、みんなで一緒にワッショイしましょう！

「ぎおんば」では中学三年生の代表が「大将」になり、仲間と一緒に責任をもって「連」をまとめ、中学生が小さい子の面倒を見ている。中学生や小学生高学年が「高張提灯」を持って「わいしょ！」と声をかけ、続いて「太鼓」を「デデンコ・テンデン」と叩き、その後を小学生低学年の掲げる「弓張提灯」が「わいしょ！」と声をあげて続き、夜になると提灯にロウソクの火を入れます。～地域学習資料「私たちの西ちいき」より～



コロナ禍でギオンバジャンボリーは今年も中止されました。



●手賀野地区盆踊り大会開催

新型コロナで2年連続中止に追い込まれた盆踊り大会が、今年は3年ぶりの開催となりました。手賀野地区の4つの区による合同の盆踊り大会です。会場は、例年の通り川上屋さんのご協力で駐車場をお借りし、今回は来場者の駐車場としてカーマさんの第二駐車場をお借りすることが出来ました。

当日午後3時、櫓の組み立てから会場づくりを行ない、午後6時半に開会。日が暮れて暗くなると提灯の明かりが輝き、多くの方が会場に集まってきました。手賀野音頭、中津節、木曾節……久しぶりに聞く民謡、マスクをしても十分楽しんで踊ることが出来ました。3年ぶりに見る「踊る姿とみんなの笑顔」にスタッフも感動したところです。

会場には、子供向けの小物やゴム風船を並べた手賀野地区「絆」会のバザー、五平餅や飲み物、から揚げなどのお店が出て、長い行列もできました。家族での参加者が多く、子供達には地区からもお菓子を配りました。コロナ禍での開催には対策や実施方法など大変でしたが、手賀野地区のにぎわいを取り戻すことができ、準備や運営に携わった方たちだけでなく、参加した皆さんも久し振りで楽しいひと時を過ごしました。

